



大西さとし 市議会だより

2011.08
No.001

高松市議会 6月定例会の報告

拝啓

高松市議会は、6月28日から7月12日の15日間、平成23年第3回定例会(6月議会)を開催し、補正予算や人事案件など19件の議案が提案され、各委員会に付託された議案に対し委員会審議の後、可決いたしました。

私が所属する「建設水道常任委員会」では、都市整備や上下水道にかかわる補正予算とともに、「高松市開発許可」や「高松市特定用途制限地域内における建築物等の制限」に関する条例の一部改正になどについて審議し、議会最終日の7月12日に可決されました。

また、所属特別委員会である「新病院整備特別委員会」では、新病院等の整備に伴う基本計画の変更について提案があり、これまでの論議経過も踏まえて審議をした結果、本提案については継続して審議を行うこといたしました。

本定例会は、改選後初の定例会であることから、定例会初日には大西市長より2期目の舵取りにおける施策として、今後の市政運営において重視すべき12の政策キーワードの下、60の具体的項目の実施について所信表明がされました。

同じく本定例会は、私にとっても初めての定例会であるとともに、初の一般質問の場となりました。

私は、高松市議会議員選挙へ望むにあたり、政治の役割は、「皆さんの声をお預かり」「その声を市政に反映し」「その結果には責任を持つ」ことであると訴えて参りました。

そこで初質問では、各種会合や座談会において意見を多くいただいた、「高齢者関係」「育児関係」について一般質問を致しましたのでご報告いたします。

今後とも、みなさまの声を市政に反映するため、全力で取り組む所存です。

引き続きのご支援、よろしくお願い申し上げます。

敬具

大西 智

6月定例会 一般質問の概略

1. 高松市高齢者保険福祉計画について

(1) 介護現場における人材確保の現状と処遇改善

<質 問>

増加する介護ニーズに応じていくためには、介護現場を支える介護従事者を計画的に確保するとともに、その資質を向上していくことが不可欠である、そのためには介護の仕事に夢や誇りを感じられるとともに、それに見合った処遇が必要である。介護職場における人材確保の状況と処遇改善をどのように認識しているのか。

<答 弁>

人材確保については、介護現場における人材の数自体は増加傾向にあり状況は改善されているが、他の産業との賃金格差があるほか、労働環境に対する不安等も重なり、全国産業平均と比べ、離職率は高く安定した人材確保が大きな課題である。

処遇改善については、平成21年度の介護報酬改定により3%の引き上げ改定されたほか、介護職員処遇改善交付金が創設され一定の改善は図られたが、全産業と比較して未だ十分とはいえない。このため、本年6月の全国市長会において介護職員処遇改善交付金を国の負担と責任において恒久化すべきとの提言を取りまとめ国に提出している。

(2) シルバー人材センター事業への支援状況と今後のあり方

<質 問>

平成27年には団塊の世代が65歳を迎えるなど老年人口の増加は、今後さらに加速する。超高齢化社会と向き合っていくこととなる現役世代にとっては、高齢期に対して夢や希望が持てることが大変重要である。生きがいきくりと社会活動への参画の促進のため、シルバー人材センター事業への支援を行っているが、現在の支援状況と今後における支援のあり方に対する考は。

<答 弁>

シルバー人材センター事業への支援状況については、活力ある地域社会を築く上で重要が事業と考えている。本市では、年間約2,130万円の財政支援と、年間約1,100件、約1億2千万円の委託契約を行っているほか、各種行事への支援に努めている。しかしながら平成22年度シルバー人材センターの受注状況は、受注件数は増加したものの受注金額が減少している。

現在同センターでは、平成24年度を目途に公益社団法人への移行を目指し体質の強化を図っている。今後とも本市としては、適切な指導・支援を行い、高齢者の就業機会の拡大を促進していく。

(2)成年後見制度の活用実態および市民後見人の養成・活用に対する考えについて

<質 問>

本年6月15日に参議院本会議において、介護保険法等の一部が改正され市民後見人の育成および活用など、市町村における高齢者の権利擁護が盛り込まれた。現在、判断能力にハンディのある方の財産管理や福祉サービス契約などを代理して行うのは成年後見人であり高松市においても、高齢者の権利擁護として成年後見制度を活用している。

市民後見人は、定年退職したシニアの方が、生涯にわたり社会の一員として担える役割の1つに成りえると考えるが現状における成年後見制度の活用実態と、市民後見人の養成・活用についての考えは。

<答 弁>

成年後見制度の現状は、高松家庭裁判所への申立で見ると、平成22年の申立件数は、271件、選任件数は255件であり、その内約6割が親族、約4割が弁護士や司法書士などの専門職後見人となっている。

認知症高齢者や一人暮らし高齢者の増加が見込まれる中、成年後見制度の必要性は一層高まりその需要は増大することが見込まれるため、市民後見人を中心とした支援体制の構築が必要である。

しかしながら、市民後見人の養成・活用には、市民後見人を安定的に活用する組織体制や、困難事例に円滑に対応できる支援体制の構築などの諸課題があることから、本市ではまず市民ボランティア意識の醸成に努めることとし、今後関係機関とも連携をしながら検討課題として取り組む。

2. 待機児童の現状と解消の見通しについて

<質 問>

全児童数に対する保育所利用児童数の割合は、平成19年度で30.2%であり、平成22年度は32.2%と保育所への入所ニーズは年々増加している。

少子高齢化の進行による人口減少時代を向かえ、今後中長期的な経済成長の基盤を確保するためには、働く意欲と能力を持つすべての人が労働への参加できる仕組みづくりが必要であり、待機児童の問題は子育て支援のみならず、社会構造全体に影響する重要な問題である。

市長は2期目のマニフェストに「年度当初はもちろん、年度途中においても待機児童の解消を目指す」と掲げているが、現在の待機児童の状況と待機児童解消の見通しは。

<答 弁>

本市における待機児童の現状は、平成19年度以降、年度当初の待機児童数は0である。平成22年度における、年度途中の発生数は、10月1日で32人、3月1日で125人である。

待機児童解消に向けた見通しは、今年度新たに、待機児童が多く発生すると見込まれる地区の公立保育所10箇所から保育士を配置し、年度途中の入所希望児童の受入を可能としている。

また、私立保育所の創設を3箇所、増改築を1箇所行っており、平成24年4月に、365人の受入定員を増やすことから待機児童はほぼ解消されるものと考えている。

活動日記



4/29 木太町町民運動会



5/1 第 82 回メーデー集会



5/7 木太百寿会総会



5/13 四国電力総連 チャリティボウリング大会



5/19 消防団木太分団第三部屯所落成式 祝賀会



5/21 四国電力総連 青年フォーラム



6/21 木太町防災訓練



6/25 木太南校区フットボール大会



7/7 木太保育園夕涼み会



7/9 四電技術コンサルタント労組 定時大会



7/17 四電外務員労組 定時大会



7/31 第 17 回あまから水祭り

発行:大西さとし後援会

<http://www.ohnishi-satoshi.jp>

◆後援会連絡所

〒760-0050

高松市亀井町 7-9 高松電気ビル7階

TEL(087)837-2777 FAX(087)837-8783

◆後援会事務所

〒760-0080

高松市木太町 1849-1-602

TEL 090-8696-1730

